

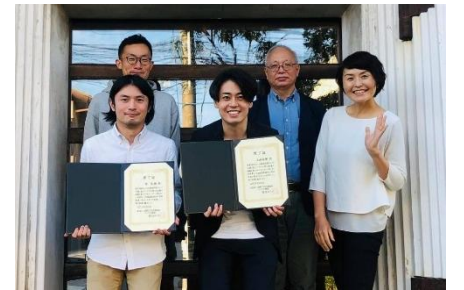
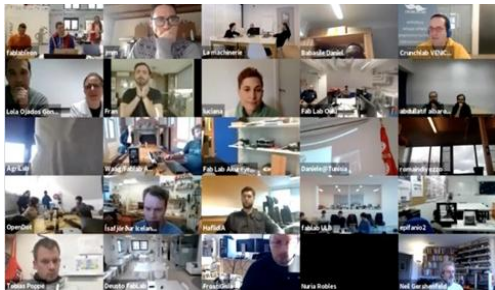
# 活動事例

## ● ファブラボ栗山(ものづくりDIY工房)運営支援員

- ✓ 栗山町では2016(平成28)年度より、ものづくりを通じて創造的な課題発見・解決力を身につけられる学びの場と、いつでも誰もがチャレンジできる環境を備えたものづくりDIY工房（後にファブラボ栗山）を運営し、個人や地域社会に存在する課題に能動的に取り組む人材の育成と、互いの知見の構築・共有による交流を促し、地域活動や地域産業の担い手づくりを図ることを目的とした事業に着手。その施設運営を担う専属インストラクターの人材確保・育成を図るべく、隊員2名を採用し2019(令和元)年9月に委嘱。

※ファブ施設：コンピューター機器と接続された3Dプリンターなどのデジタル工作機械をはじめ、アナログ工作機械・工具を、誰もが利用可能な施設を指す広義としての呼称。その一つである「ファブラボ」は世界120カ国・2000カ所以上に広がる市民工房であり、巨大なネットワークでつながり、誰でもどこでも（ほぼ）何でも作れるような環境、スキル、素材、先端技術を習得するための手段を提供しているファブラボ憲章のもと理念を共有しているが、目的や運営形態は施設によって様々。国内では約20カ所存在する。

- ✓ 同年10月からはスキルアップ・ノウハウ習得に向けた研修として、国内参考事例としていた「ファブラボ鎌倉」へ1年間派遣し、マサチューセッツ工科大学オンライン授業、OJT、フィールドワーク等を実施。



# 活動事例

## ● ファブラボ栗山(ものづくりDIY工房)運営支援員

- ✓ 研修後、2年目となる2020(令和2)年11月からは試行運営場所である町営工房施設に常勤し、インストラクターとして利用者へのサポート強化や利用促進に向け対策検討・実施したほか、継続的な「ファブラボ鎌倉」によるノウハウ提供のもと実践を積み重ね、2021(令和3)年8月に最終的な試行段階となる「ファブラボ栗山β」に移行。
- ✓ これと並行して、将来的なファブラボ栗山運営業務の受託を見据えるほか、様々な自主事業にもチャレンジしながら地域課題の解決にも寄与できる展開を目指してビジネスプランの作成を進め、3年目終盤の2022(令和4)年8月に「合同会社ジモトファブ」を起業した。



# 活動事例

## ● ファブラボ栗山(ものづくりDIY工房)運営支援員

- ✓ 任期終了後の2022(令和4)年10月より町からファブラボ栗山運営業務を受託し、ファブラボ栗山の本格運営に向けて準備作業を進め、2023(令和5)年1月より新たな交流拠点施設「栗山煉瓦創庫くりふと」内にファブラボ栗山をオープン。
- ✓ ファブラボ栗山では「まちの未来を開拓する担い手づくり」をコンセプトとし、誰もがものづくりを通じて自ら課題発見・解決を行えるようにするため、各種サービスの対応と磨き上げ、工作設備の保守管理、体験ワークショップや地域課題プロジェクトの企画運営、情報発信・PR活動などの業務を行なっている。
- ✓ 合同会社の自主事業としても、町内団体・事業者からのデザインや加工の代行、教育機関との連携によるプログラム企画運営、子どもの居場所づくりなど、ファブラボ栗山の利用促進にも関連した事業を行なっている。



# 活動事例

## ● ファブラボ栗山(ものづくりDIY工房)運営支援員

- ✓ 人材育成モデルづくりの実践・検証として、新たに隊員2名を2期生として採用し2021(令和3)年10月に委嘱。合同会社ジモトファブの指導を受けながらスキル習得や実践活動を行い、ラボの運営サポートほか、自主事業として地域課題を発見・解決する「地域課題プロジェクト」の立案・実施に取り組んだ（農業IoTプロジェクトなど）。なお、2期生のうち1名は自己都合により2年目に退任、もう1名は3年間の任期終了後、自身の更なるスキルアップと実践経験を積むべく札幌市内のIT企業に就職。
- ✓ 更なるサービス拡充と運営スタッフの増員を図るため、2025(令和7)年5月に3期生として隊員1名、2026(令和8)年4月に4期生として隊員1名を委嘱。合同会社ジモトファブの指導を受けながらスキル習得や実践活動を行い、ラボの運営サポートほか、自主事業として地域課題を発見・解決する「地域課題プロジェクト」の立案・実施に取り組んでいる。

※新規隊員の募集・育成業務は町から合同会社ジモトファブに委託している。

